

# 花市場での花育事業 湖東白ゆり保育園

作成者：株式会社浜松生花地方卸売市場 開発営業部 谷口 伸彦

## ■ 実施主体

名称：株式会社浜松生花地方卸売市場  
担当窓口：開発営業部 谷口 伸彦  
所在地：静岡県浜松市西区湖東町5851-2  
HP：<http://www.hamasei.jp>



## ■ 実施保育園 湖東白ゆり保育園（浜松市西区湖東町）

## ■ 取組地域 静岡県浜松市内



## ■ 概要

弊社近くにある湖東白ゆり保育園で、年間を通して子供たちの成長を見守りながら、様々な花育事業を行っている。

フラワーアレンジメントや花苗の寄せ植え、リース作りや、多肉植物寄せ植え、芝ぼうや作りなどを実施している。季節やイベントに合わせて企画し、専門の講師は呼ばずに、市場のスタッフが講師を務めて指導をしている。子供たちが自由に発想し自由に創造することを重視して行っている。

## ■ 取組開始時期・経緯

取組開始時期：平成27年4月から

経緯：以前から年1回の花育事業を行っていたが、弊社近くに保育園が開園したことをきっかけに、子供たちの成長を見守りながら、継続的に花育事業を企画し実施したい旨を園に伝えたところ、同じような思いを保育園の方々と共有することができ活動が始まった。

## ■ 目的（目標）

- ・子供たちが花や植物と関わることを通して、感性や創造力を育み、近隣にある花市場のスタッフが訪問することで、地域の人達との交流や関わりを体験する。
- ・年間を通して実施することで、子供たちが季節折々の花に触れる機会を作り、より花に親しんでもらえるようにする。

## 【取り組み内容】

- 対象者・人数：年長組5歳児 20名
- 所要時間：60分
- 対象場所：保育園
- 指導者：講師（市場社員）2名、保育園先生5名

＜卒園記念の寄せ植え作り＞

### ■ 資材（当日）

- ・7号丸鉢（プラスチック製）25鉢
- ・スコップ
- ・培養土5袋 赤玉土2袋（前日）
- ・丸鉢の表面に子供たちが似顔絵を描いた



- 花材：リナリア、ロベリア、ムルチコーレ、アリッサム、キンセンカ、ペチュニアの6種類



### ■ 活動内容（指導内容）

「3月 卒園記念の寄せ植え作り」

事前に、プラスチックの7寸鉢を渡して、園児達が鉢の側面に思い思いの絵を油性ペンで描いた。花の絵や太陽、似顔絵や家族の絵など、自由に描きこれで自分だけのオリジナルの鉢が完成。名前も書いて自分の鉢だとわかるようになっている。

子供たちが6種類の花苗の中から、好きな花を3種類ずつ選び、ポットからの抜き方、土の入れ方を説明した上で鉢に自由に植えてもらう。

完成した寄せ植えは、子供たちの卒園式に飾られ、卒園式後は家庭に持ち帰った。

## 【作業手順】

1. 子供たちは、寒い寒いと言いながらも、自分で絵を描いた鉢を持って、熱心に説明を聞いていた。まずは、花苗の説明から行った。用意した苗はペチュニア、リナリア、ロベリア、ムルチコレ、アリッサム、キンセンカの6種類、いずれも春の苗物として代表的なものを紹介した。

花の名前を一緒に言ってもらいながら、どれを選びたいか考えてもらった。

2. 土の種類と入れ方を説明

鉢に、赤玉土を入れて、その上に少しだけ培養土を入れる。子供たちは寒いのも忘れて一斉に駆け寄り、土を入れた。

3. 1人3種類の花を選んでもらう。

大人の感覚でのバランスや見た目を指導しないで、子供たちの感性で好きな苗を選んでもらった。

4. 苗をポットから出す方法を説明し、花を傷めないように、土をこぼさないようにして鉢の中に配置する。

どの子供たちも真剣な表情で取り組んでいた。あまり強く押さえつけないように、ふんわりと土で包むようにやさしく植える。



5. 苗と苗の間にも土を入れて、先生に少しだけ手直ししてもらって、完成した。



6. 自分の鉢を持ってうれしそうに、また誇らしげに見せてくれた。  
この花はかわいい、いい香りがするなど、それぞれに感想を持ち、子供によって感じる場所は違っていた。



7. 最後に一列に並んで記念撮影をしたところ、3月で卒園する子供たちが寄せ書きを作って渡してくれた。



※「浜名湖花フェスタ2016」開催に当たり、はままつフラワーパーク招待券50枚を当社から高柳園長先生に進呈した。子供たちが家族と共にフラワーパークを訪れて花を楽しむことができる大変喜ばれた。



## ■ 指導のポイント

子供たちは、自分で作った寄せ植えを卒園式に飾ることをとても意識をしていたようだ。鉢に絵を描いて花を植える。なぜ植えるのか。何のために植えるのか。そして植えるとどうなるのか。楽しかったと同時に、まわりが花できれいになったことを感じてもらうことができたと思う。

花を飾ろうと言葉で伝えても、その実感は伝わりにくいと思う。

こうして、自分の手で体験すれば、決して忘れない記憶として、大きく成長しても残っていくことだろう。素直に受け止められる子供たちだからこそ、この花育の経験は強く残っていくと思う。

また、花とともに、関わった私たちに寄せ書きを贈るという人と人との関係にまで思いを発展させることができたことは、大きな成果だと思う。一回きりではなく、数回実施することが大切だと思う。

## ■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

・毎回、同じメンバーで訪問、指導している。

(子供たちは、講師の顔を覚えていて、楽しみにしているようだ)

## ■ 経費 1人当たり花材費・資材費

・7号プラスチック鉢 300円程度

・花苗（ポット苗） 3種類 500円程度

## ■ これまでの成果

子供たちだけでなく、その周りにいる親世代の植物にあまり関心を持ってこなかった大人にも、花を植えて楽しいことが伝わることになるだろう。

普段、保育園の活動に参加ができない親達が、子供たちが保育園から楽しそうに花を持って帰る姿に驚いているようだ。

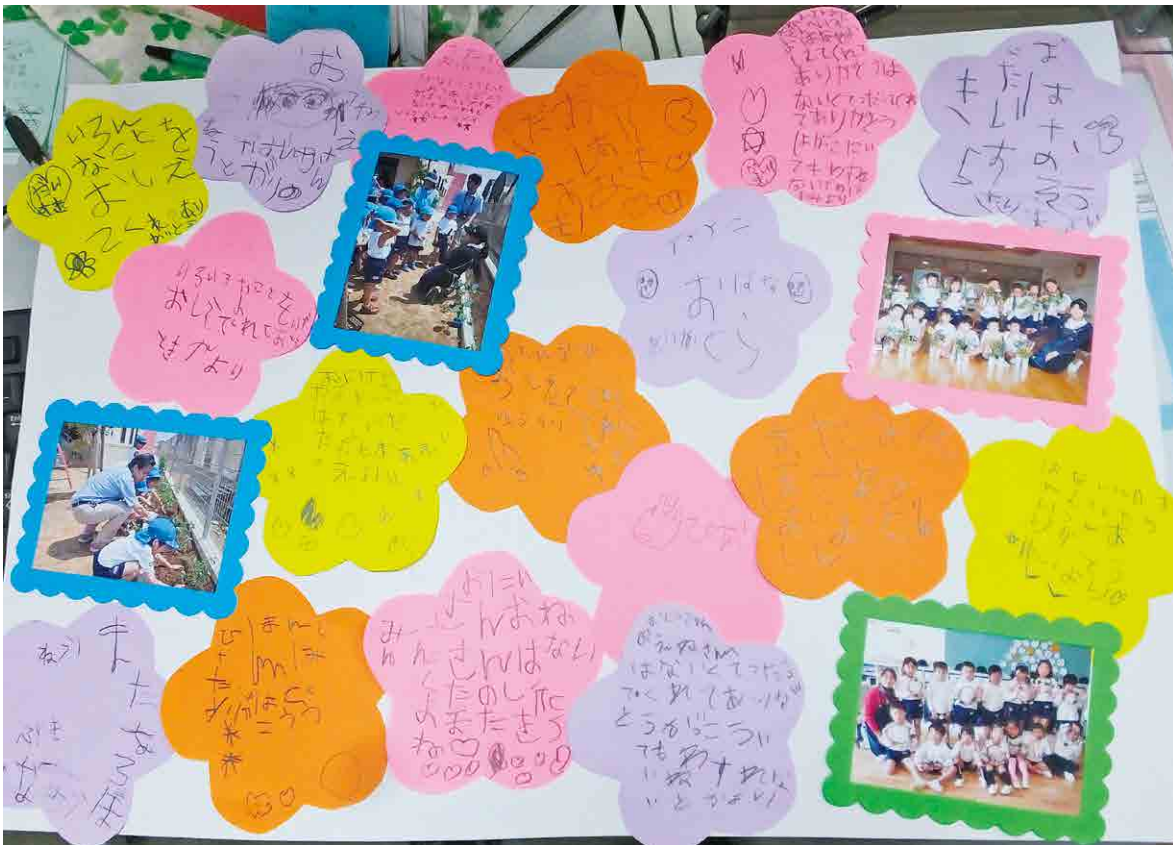
## ■ 参加者からの感想（子供たち、保護者、先生）

毎回、楽しい企画を考えて、子供たちも楽しく過ごしている。ぜひ、今後も続けて欲しい。

## ■ 今後の課題やその改善方法

2016年度湖東白ゆり保育園で6月、9月、12月、3月と4回に渡り花育活動を実施してきたが、繰り返し実施することにより、子供たちの意識は大きく変わってきていると感じる。次年度も継続して同保育園で実施し、子供たちの成長を見守っていきたい。

子供たちの寄せ書き↓



静岡新聞 2016年3月12日（土）朝刊記事↓

(第三種郵便物認可) 責争

**西区 保育園児が寄せ植え**  
 浜松市西区湖東町の湖東白ゆり保育園（高柳益江園長）で10日、年中、年長園児16人が寄せ植え作りを体験した＝写真＝。地元の浜松生花

したオリジナルの鉢を見せ合って喜んだ。体験後には年度を通して事業を行ってきた同社に園児が感謝の言葉をつづった寄せ書きを贈った。

地方卸売市場が行う花育事業の一環で、完成した寄せ植えの鉢は26日の卒園式で飾られる。  
 アリッサムやペチュニアなど、色とりどりの花が用意され、園児らは「いいにおい」と花を楽しみながら、自由に苗を三つ選んだ。同社の社員から手ほどきを受け、太陽や笑顔など好きな絵を描いた直径約20センチの鉢に植えると、完成

ま ち ト ピ



2015年6月 芝ぼうやづくり



2015年6月 野菜苗の植え付け



2015年9月 敬老の日のアレンジメント



2015年12月 クリスマスリースづくり



2016年6月 多肉植物 箱庭づくり



2016年6月 野菜苗の植え付け



2016年9月 敬老の日のアレンジメント



2016年12月 クリスマスの寄せ植えづくり